

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 26 年 10 月 1 日（水）

地区 明倫小学校区

会場 明倫小学校 1 階ワークスペース

参加者数 24 人



《意見》

まちづくり協議会で伊勢が大きく変わっていくのではという期待感がある。子どもの意見をいただくきっかけになる。どうなるか分からないが、まちづくり協議会に大きく期待している。

《質問・意見》

自治会の関係で当初から携わっている。明倫まちづくり協議会で成果も上げつつあるが、これまで明倫地区のそれぞれの団体、自治会でそれなりにまちづくりをやってきたが、市の旗振りで協議会ができたので、調和が取りにくい。自治会でやっている上に、更に、まちづくり協議会で何をするのか。分かりやすいのは、岡本町だけではできないことを明倫地区みんなでやったら、できるということ。防犯等は取り組みやすい。

その他のことは、消化不良の状態である。各自治会長さん、皆がそう仰っている。

二言目には「私たちのまちは私たちで」というのは、聞こえは良い。地元から声が上がっていないのに、それを押し付けるような感じでは、前へ進まない。そのことを行政は十分に踏まえてほしい。

資金の件も、地元の意見を吸い上げるリーダーシップを行政に取ってほしい。「あなた方にお任せしますよ」と言わんばかりに聞こえてくることが多い。その点に気を付けて進んでいただければ、協力していきたい。

《回答》【市長】

そういう声も聞いています。任せっぱなしでなく、協働しながらやっていくことが大事であると考えています。遠慮なしに意見を聞かせていただき、我々も言わせていただきます。

《質問・意見》

まちづくりは、良いことだと思う。我々は色んなことを考え、やろうとしている。まちづくりは市民がやる、行政がそれを支援する、という形が見えてこない。協議会に参加している役所の人は課題を持ち帰って、行政として何が協力できるのかを提案等していただければ、行政とまちの人が一緒になってできる雰囲気ができる。いつも会議を黙って聞いて、監視しているみたい。市民と行政がスクラムを組んでやっていく気概がほしい。

《回答》【市長】

職員間でも気持ちの差があると思うので、どういう形で対等に立ってできるのか、宿題とさせていただきます。

《質問・意見》

明倫地区には8つの自治会がある。自治会がある程度、地域を引っ張ってきたなかで、これ以上、皆でやらなければならないことは何なのかとなった時、明倫地区の特色を大きく捉えないと、自治会単位でできることだけであれば、まちづくり協議会に先がない。

自治会単位で防災・防犯もやれる。それ以上に、我々が大きな単位として、やらなければいけない時、役所がやらなければいけないことを住民さんがやってくれと言われている気持ちになる。市のやり方では難しい。

《回答》【市長】

地域においても、熱さ、濃度に差があります。将来のことを考えると、今からできることは何なのか模索することは大事だと思います。また、自治会がしっかり構築されているところも、年度で交代し継続できないところもあります。

《意見》

総連合自治会に明倫代表で出席したが、参加者のほとんどが状況を分かっていないのではないかと。平成27年度の本格稼働は極めて難しいと思う。学区代表で出席する場合、自分の自治会のことだけを言うのではなく、学区として言っていたらいいかといけな。

総連合自治会として反省しながら、取り組まなければならないと思うが、平成27年度からは大変であると痛感している。

《質問・意見》

まちづくりの旗を振って、人の意見を聞き、市としてどうするかは課長だと思う。市民交流課長の仕事は、何なのか、明確にしてほしい。

課長の異動が早すぎる。平成20年6月に明倫地区で準備会がスタートしたが、6年間で課長が5名代わった。それで、まちづくりを体張ってやっていけるのか。

まちづくりは我々がやりますが、疑問点等も多いので、きっちりやってほしい。

平成 25 年から平成 27 年に時期が延びた。25 年度にスタートして、課題が出た。それを修正しながら 27 年度にスタートできるならば良い。しかし、2 年延ばしたけれども、未だ、2 地区が準備段階で、27 年度にスタートできるのか。

予算を含め、いろんな問題があるので、現場の課長が把握してほしい。

《回答》【市長】

組織強化のため、ふるさと未来づくり担当として部長級の職員を配置しました。決して軽く扱ってはいません。

25 年度は立ち上げもできておらず、皆さんから課題をぶつけてもらいながら修正させてもらいました。皆さんが望むような運営ができるにはまだ課題があるので、我々も伴走しながら取り組んでいきたいと思います。

《質問・意見》

ふるさと未来づくりは、全体からすると大したことはない。2040 年に市の人口が半分になるとのシミュレーションがある。20 年後の伊勢は、どんなまちになっていると想定しているのか、聞かせてほしい。

中心地はどうなっているか、道路はどう通っているか。大きな観点で聞かせてほしい。大きな希望がなければ、まちづくりも枝葉のこと。市長は、伊勢をどう引っ張っていくのか。

《回答》【市長】

人口減少と少子高齢化に対応できるまちを最低限、作っていかねばならないということで、5 年間、準備を進めさせていただいています。小・中学校の統廃合、新病院建設など、人口構造の変化に耐えうる公共サービスと機構を作っていきます。

一番大事なものは、働く場所をいかに作るか。若い世代が大学を出て、地元に戻って働ける場所をいかに作っていくかが、大事だと思っています。若者が地元に戻って働ける環境づくりを進めるためワーキングチームを作り、来年度予算に向け、準備をしています。

観光が一番の産業ですので、観光都市のあり方を時間軸で作って行きたいと考えています。

まちづくりは枝葉でなく、根幹と思っています。ハード面は行政がやりますが、ソフト面は皆さんの協力がないと成り立ちません。

これからは、質を求めることも大事です。質を求めていくには、地域の住民が魅力ある地域を作っていく必要があります。今は防犯・防災が中心ですが、将来的には、観光やコミュニティビジネスまで発展することを期待しています。

《質問・意見》

明倫まちづくり協議会広報部という立場で発言します。

まちづくり協議会とは何をするとところか、と皆に聞かれます。市長は、どのように答え

ますか。

自治会はなくならずにあるわけで、協議会は何をもって必要なのかが、私の素朴な疑問です。自治会中心に頑張るなら、まちづくり協議会は必要ないのではと、今は思っている。

来年度に向け、全域でやっていくことなので、まちづくり協議会が必要ないというのは現実と違う。まちづくり協議会って何なのか。自治会と同じという返事になってしまう。来年に向け、違いをアピールしなければいけないと思います。

《回答》【市長】

人口減少、少子高齢化で人口が減っていきます。自治会だけでは足りない広域的な部分であるとか、もう一歩、踏み込んでいくと、それぞれの地域で子どもたちにどういった地域を残していくのか、我々の世代が責任を持って、繋いでいくことが大切であると思います。

《質問・意見》

伊勢市上空を飛行機が毎日 50 機飛行している。30 分に 1 機飛んでいる。想定外のことも起こる。これに対しての市長の考えは。

《回答》【市長】

30 分に 1 機飛んでいるというのは始めて聞きました。国土交通省所管になると思いますが、空の管理にどう対応して行くべきか、大きな宿題として預からせていただきます。

《意見》

地方創生について国会で議論されている。50 年後も 1 億人の人口を確保するためにどうするのか。まちづくり、ひとづくり、仕事づくり。この 3 つがないと人口が減る。

施策として、ひとづくりが一番大事と思う。人づくりすることで、子どもたちは、次世代に人口は減るけれど、希望を捨てなくていい。夢を持たせてあげたい。

国、県、市とまちが一体となって、伊勢市の発展に努力してもらいたい。